

**令和2年度  
福岡市総合図書館の運営に関する評価**

**令和3年10月  
福岡市総合図書館**

## 福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議委員名簿

(五十音順)

	所属等
上村 篤子	福岡市総合図書館運営審議会委員 (社会教育関係)
高橋 昇	福岡市総合図書館運営審議会委員 (学識経験者)
豊澤 絵里奈	福岡市総合図書館運営審議会委員 (家庭教育関係)
平田 エマ	公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部次長兼 BIZCOLI 館長
宮本 直嗣	福岡市総合図書館運営審議会委員 (本市の住民)

## 令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(総括)

福岡市総合図書館新ビジョン基本理念	
市民がくつろぎ、本や人と楽しくふれあえる新たな学び・情報・交流の拠点となる図書館	
利用者の高度化・多様化するニーズに対応できる資料・情報を提供する生涯学習施設として、また、内部空間だけでなく外部空間も含めて、快適な空間を最大限に活用することにより、これまで図書館を利用したことのない人なども集う場を創出し、多くの市民がくつろぎ、楽しさを共有できる新たな情報・交流の拠点となる図書館を目指します。	

成 果 指 標					
成 果 指 標	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末
図書館利用者における 図書館サービスの満足度 【令和5年度:90%】	85.9% (+1.7)	87.2% (+1.3)	88.9% (+1.7)	—	—
※図書館サービスに関する調査3項目の満足度のうち、最も低い値を成果とした					
※( )は前年度からの増減					
※令和元年度は利用者アンケート調査を実施せず。令和2年度は実施予定。					

目 標 数 値					
目 標 数 値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①入館者数 【令和5年度:3,500千人】	—	—	—	2,627,641人	1,640,847人 [ 986,794 ] [-37.6%]
②個人貸出冊数 【令和5年度:4,800千冊】	4,274,103冊	4,167,046冊 [-107,057] [-2.5%]	4,108,973冊 [-58,073] [-1.4%]	3,958,372冊 [-150,601] [-3.7%]	3,251,539冊 [-706,833] [-17.9%]
③貸出利用者数 【令和5年度:1,400千人】	1,233,797人	1,211,296人 [-22,501] [-1.8%]	1,214,402人 [+3,106] [+0.3%]	1,178,884人 [-35,518] [-2.9%]	949,860人 [-229,024] [-19.4%]
④新規登録者数 【令和5年度: 30千人】	33,846人	26,207人 [-7,639] [-22.6%]	24,712人 [-1,495] [-5.7%]	22,528人 [-2,184] [-8.8%]	16,558人 [-5,970] [-26.5%]
※入館者数については、平成30年度に装置の不具合が判明したため過去の数値も非表示。					
※[ ]は前年度からの増減。					
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和元年度は総合図書館のみ令和2年2月27日から同年3月20日まで臨時休館を行い、また、令和2年度は総合図書館及び分館が、令和2年4月4日から同年5月25日まで臨時休館を行った。					
※南図書館は、南市民センターの大規模改修工事に伴い、令和3年1月5日から令和4年8月上旬(予定)まで長期休館を行っている。					

内 部 評 価	事業別評価	
<評価> 成果指標である「図書館サービスの満足度」は、緊急事態宣言発出を受け臨時休館したこともあり、令和元年度に引き続き、令和2年度も満足度調査が実施できていない状況である。また、目標数値においても、臨時休館や新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点で外出が自粛なされたこと等から、前年度実績から大幅にマイナスとなっている状況であるが、来館せずに利用できる福岡市電子図書館を令和3年3月に開館した。 事業別評価については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いつつも、図書館としてサービス等を提供できる範囲で提供していたが、前年度より評価がマイナスとなっている。 <対応> 引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、福岡市総合図書館新ビジョンの推進及び目標達成に向けて、計画的に事業を実施するとともに、図書館サービスの向上を図るための取組みを推進していく。	A評価	13事業
	B評価	12事業
	C評価	—
	D評価	—

外部評価

・新ビジョンを策定する前からの10年間の推移を見ると、大きく変化したのは貸出冊数と資料収集経費の減少である。このような状況下で分館を含めた福岡市総合図書館の運営は、職員、嘱託司書一丸となり、市民と力を合わせて頑張っていると言える。

しかし、下記の数字が示しているのは、組織と個人の力を十分に発揮できなくさせている現実である。このような予算の状況が続けば図書館の運営は衰退の一途を辿るしかない。

下記項目ごとに平成21年(2009)年と令和2年(2020)年を比較してみる。

貸出冊数 5,005,858冊(H21年度)→3,251,539冊(令和2年度) 64.9%

収集冊数 61,762冊(H21年度)→61,843冊(令和2年度) ほぼ同数

収集経費 205,803千円(H21年度)→112,412千円(令和2年度) 54.6%

(福岡市予算額 6,922億円→8,874億円 128%)

収集冊数が同じということは、調査に必要な参考図書の収集が減少しており、図書館の調査能力の低下を意味している。

・利用者の満足度調査の実施を望む。利用者のニーズを知ることは最も大切と考える。利用していない市民の声、ニーズを調査することにより、利用者増の道がひらかれるのではとも考えている。

限られた予算の中、魅力ある図書館にと工夫し苦心しながら事業に取り組まれていることを評価する。その一方、ウイルスの感染拡大により中止となるイベントがやはり多かったと感じている。リアル開催が必須のイベントは場所を変えるなどの対応で開催できないか検証しておくなどの対応やリモート開催できるものは企画の段階から、そのことを視野に入れておくなどの対応を求める。そのためには換気設備の更新や、リモート環境の整備と操作する人材の育成が必要と考える。

・快適な空間づくりから、利用者のサービス向上、専門性の高い公文書の普及啓発や、若い世代への働きかけなど、幅広い事業を行っていることを知った。

新型コロナウイルス感染症対策のため、やむを得ず中止や延期されたところもあるかと思うが、今後も引き続きサービスの充実を図り、誰もが利用しやすい図書館を運営していただきたい。

・コロナ禍の状況下で市民に対し文化的な図書サービスの提供はご苦労されたと思う。その様な中でも柔軟に対応されていると感じた。足踏み状態な事業もあると思うが、事業計画を来期につなげて、市民の皆様喜んでもらえる図書サービスを継続するようお願いしたい。

市民への情報サービスやイベント企画等、今後も図書サービスを中心に置きながらも、多様性やSDGsを念頭に拡げていっていただければと思う。

・コロナ禍で様々な対応を迫られる1年だったと思うが、その中でも計画変更しながら事前に取り組んでおり、全体として評価できる。

一方で評価を回数、件数のみで評価し「少ない」「多い」で測るところも気になる。計画変更の際に評価の項目や内容についても少し言及しても良いのではないかと思う。計画を守ることが全てではなく、よりよい図書館運営に必要な事業であれば、柔軟に変更できるような体制も検討していただきたい。

事業別評価

委員①		委員②		委員③		委員④		委員⑤	
A評価	7	A評価	9	A評価	16	A評価	18	A評価	12
B評価	13	B評価	15	B評価	9	B評価	7	B評価	13
C評価	5	C評価	1	C評価	0	C評価	0	C評価	0
D評価	0	D評価	0	D評価	0	D評価	0	D評価	0

<評価の基準>

福岡市総合図書館新ビジョン事業計画の取組状況については、下記の基準により評価を行っている。

判定	評価内容
A	計画どおり取り組み、内容も十分である。
B	ほぼ計画どおり取り組んでいるが、少し不十分な点がある。
C	計画どおりには取り組んでおらず、不十分である。
D	取り組んでいない。

## ○新ビジョン事業計画一覧表

	図書館像	項目	内容
1	誰もが楽しめる 魅力ある図書館	図書資料の貸出・ 返却拠点の新設	分館の新設
2			貸出・返却拠点等の新設
3		利用時間の見直し	休館日、開館時間の見直し
4		図書館イベントの充実	図書館イベントの充実
5		快適な空間づくり	快適な空間づくり
6	さまざまな情報を求める 市民に応える図書館	図書館サービスの充実	資料収集の充実
7			レファレンス(相談)サービスの充実
8			課題解決型支援の充実
9		地域読書活動への支援	団体貸出先の拡大
10			地域読書活動への支援
11		市関連施設の図書室 の相互協力	市施設の図書室との相互協力
12	子どもと本をつないで 豊かな心を育む図書館	子どもへの読書普及	モデル児童図書目録の配布
13			子どもの貸出カード作成推進
14			ヤングアダルト層(12歳~18歳)への働きかけの強化
15			読書活動ボランティア講座の強化
16	学校図書館への支援	学校図書館支援センターの充実	
17	総合図書館の特色を 生かした図書館	映像資料部門の充実	図書館外施設での映像資料上映事業
18			資料展示事業
19		文書資料部門の充実	文書資料のデジタルデータ化・情報提供の充実
20			文学館の利用拡大
21	効率的で効果的な 図書館運営	図書館運営の強化	運営方法の検討
22			図書館ボランティアとの共働の推進
23			職員の育成及び技術向上
24			施設の有効活用などによる財源確保
25		情報発信の推進	情報発信の推進

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書資料の貸出・返却拠点の新設		
内容	分館の新設				
事業計画	早良南地域交流センターの2021年11月の開館に合わせて分館開館準備に取り組みます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	【早良南図書館】 開館準備			◇開館	
令和2年度					
計画	令和元年度に検討した結果、指定管理者制度による運営で決定したため、指定管理者の公募、選定等、運営管理に関する手続きを進める。また、開館までに必要な所蔵図書の収集を行い、開館準備を進める。				
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者公募により、指定管理者を決定するとともに、運営管理に関する手続きを進めた。</li> <li>早良南図書館の開館に向け、開館準備室を立ち上げるとともに図書資料収集を実施。</li> <li>早良南図書館運営に必要な図書館システムの構築等を行った。</li> </ul>				
令和3年度					
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな拠点となる早良南図書館開館の円滑な運営に向けて、関連する事業者、関係部署等と調整を図る。</li> <li>開館後は指定管理による管理運営により、利用者満足度の高い図書館運営を目指す。</li> </ul>				
内部評価 (令和2年度)					
<p>新たな分館となる、早良南図書館の図書館づくりにおいては、関係部署と調整を図りながら書架配置等の計画を進めるとともに、所蔵図書の収集に努めた。また、指定管理者公募を行い、事業者が決定した。</p> <p>全体的に計画どおりに進んだためA評価とする。</p>					A
外部評価 (令和2年度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>開館後の分館を実際に見ないと本当の評価はできないが、過去の失敗を教訓としていると期待して、A評価とする。</li> <li>計画通りに進んでいると評価できる。</li> <li>全体的に計画どおりに進んだということなのでA評価。</li> <li>計画が順調に進んでいるので一層の進展を期待する。</li> <li>早良南図書館の開館に向けて計画どおりに進んでいるのでA評価とする。</li> </ul>					A : 5 B : 0 C : 0 D : 0

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書資料の貸出・返却拠点の新設		
内容	貸出・返却拠点等の新設				
事業計画	利用者の利便性の向上を考慮し、交通の便の良い公共施設等における図書の貸出・返却拠点の設置を推進します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討、協議				
			◇設置		
令和2年度					
計画	市の施設、民間施設への具体的な拠点設置に向けて、関係部署、関連民間企業等との協議を進める。				
取組状況	返却ポスト設置数が少ない東区内への返却拠点(ポスト)設置に向けて関係する民間施設管理者と具体的な協議を進め、令和2年8月より設置及び運用を開始した。 設置場所は、香椎照葉地区「アイランドシティセンターマークスゲート」1Fセンターコリドー内(「サンカルナ香椎照葉」、「ラクレイス香椎照葉」及びテナントゾーンの共用通路内)				
令和3年度					
計画	市の施設、民間施設への具体的な拠点設置に向けて、関係部署、関連民間企業等との協議を進める。				
内部評価 (令和2年度)					
令和2年8月より福岡市東区内において、返却ポスト設置及び運用を開始することができた。また、新しい貸出拠点となる早良南図書館の開館準備にも着手したことからA評価とする。					A
外部評価 (令和2年度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・返却ポストは着実に増えているが、新ビジョン8年目になるが、貸出ポストがまるで進展してない。公民館の活用なども検討してもらいたい。</li> <li>・東区に新たに返却拠点(ポスト)が設置されたことは評価できるものの、まだ十分とは言えない。また、貸し出しもできる拠点が一向に増えず、今日に至っている。さらなる具体的な取り組みが必要であると考え。</li> <li>・新たに返却ポストを設置でき、利便性が増したためA評価。</li> <li>・計画に沿って返却ポストの運用開始ができているとのことなので、今後も協議を進めより一層の充実を期待する。</li> <li>・現在着手中の返却ポスト設置については順調に進んでいるが、その他の要望あるエリアでの設置に向けた取り組みに期待したい。</li> </ul>					A : 2 B : 2 C : 1 D : 0

## 令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)




図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	利用時間の見直し		
内容	休館日、開館時間の見直し				
事業計画	図書館分館ごとの市民ニーズ等に基づき、休館日と開館時間の見直しを検討します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	【休館日】 検討	段階的に実施			
	【開館時間】 検討	段階的に実施			
令和2年度					
計画	引き続き、定期的な調査等のほか市政アンケートを実施し、市民ニーズの把握に努める。				
取組状況	<p>図書館が実施する利用者アンケートは新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施できなかったが、市政アンケートのなかで開館時間等に対する市民ニーズを把握した。市政アンケートの結果では「図書館がどのような図書館であれば、いま以上に利用したいと思いますか(21の選択肢を5つまで選択)」との問いに対し、「朝早くから開館している」が4.9%、「夜遅くまで開館している」が14.3%、「月曜日も開館している」が4.2%であった。</p> <p>また、令和3年11月に開館する早良南図書館については、東図書館と同様の開館時間及び休館日として、指定管理者の公募を行った。</p>				
令和3年度					
計画	これまでの検討結果及び市政アンケートの結果、東図書館、早良南図書館での実施状況、成果を検証し、継続的に検討を行う。				
内部評価 (令和2年度)					
利用者アンケートは実施できなかったが、市政アンケートでニーズ把握を行ったことや、早良南図書館は、東図書館と同様の休館日と開館時間で開館することとして休館日と開館時間の見直しを行ったことから、A評価とする。					A
外部評価 (令和2年度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・分館の設置されている位置や利用時間帯の分析ができておらず、今までの横並びでの開館時間帯では利用者のニーズに寄り添えていない。</li> <li>・新規に開館した、また開館予定の分館での取り組みは大いに評価できる。従来からある分館についても着手して欲しい。</li> <li>・市民のニーズの把握を行い、図書館分館ごとに開館時間が違いニーズに込えているためA評価。</li> <li>・アンケート等地道なことだが、市民の声を今後もしっかり把握して欲しい。</li> <li>・利用者アンケートは実施が難しかったとのことだが、例えばHPにアクセスした人を対象にした「図書館についての」webアンケートを実施してもよいのではないかと(アンケートの実施が評価のメインではないのでA評価で)。</li> </ul>					A : 3 B : 1 C : 1 D : 0



令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書館イベントの充実		
内容	図書館イベントの充実				
事業計画	子ども向けのおはなし会や体験講座、大人向けの講座など、幅広い層に向けて多様なイベントを実施し、これまで図書館を利用していなかった層への訴求や、参加者の満足度の向上を目指し、引き続き、読書の普及や図書館の活用促進を図ります。 また、市の関連部署と連携したイベント、総合図書館の映像資料部門や文書資料部門、各分館との連携による企画を実施していきます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
令和2年度					
計画	新型コロナウイルス感染症の状況や対策に十分に配慮しながら、総合図書館及び分館において、共通テーマで選んだ各館の蔵書を10月に一斉展示する「図書館マンス」をはじめ、「こどもの読書週間」や「読書週間」などを中心に読書普及につながるイベントを企画・実施する。また、大人やヤングアダルトを対象とした読書イベントを引き続き企画・実施する。				
取組状況	期間中に臨時休館となるなど、新型コロナウイルス感染症の感染状況が酷くなり、企画したイベントの多くを中止せざるを得なかった。しかしながら、「図書館マンス」の「図書館たからじま」をはじめ、おはなし会や課題解決型支援の起業・経営相談会、がん講演会など、感染症対策をしっかりと行いながら実施に努めた。また、高校生向けの国連講演会は、初めてオンラインで実施し、海外から高校生の参加があったり、中村哲氏の一周年忌記念事業には、多くの参加を得るなど、新たな展開もあった。さらに、ボードゲームやTRPGなどゲームイベントやアジアンパーティ関連イベントについては、各部門連携型の展示に変更して行うなど、展示に関してはこれまで以上に充実したものを実施できた。また、休館中においても図書館イベントに関する動画配信を行うなど、魅力発信に努めた。  読書行事等イベント 総合図書館・分館102回 1,726人 展示(総合図書館)135回				
令和3年度					
計画	新型コロナウイルス感染症の状況や対策に十分に配慮しながら、総合図書館及び分館において、共通テーマで選んだ各館の蔵書を10月に一斉展示する「図書館マンス」をはじめ、「こどもの読書週間」や「読書週間」などを中心に読書普及につながるイベントを企画・実施する。また、大人やヤングアダルトを対象とした読書イベントを引き続き企画・実施する。				
内部評価 (令和2年度)					
厳しい状況の中で、イベントを止めたり、縮小したりするのではなく、状況を踏まえながら、オンライン利用など新たな取り組みも行い、読書活動の促進や情報発信の強化に努めることができたためA評価とする。					A
外部評価 (令和2年度)					
・コロナウイルス感染症の状況下、工夫して活動した事は評価できる。 ・様々なイベントや展示がコロナ禍にあっても、オンライン利用など工夫され実施されたことは評価できる。しかし、子ども向けのおはなし会などのイベントは分館ではある程度行われているものの、本館ではほとんど実施されていない。人数を制限して回数を増やすなど工夫してのイベント開催が求められる。イベントに参加して、本・絵本の楽しさ良さを知る、または再認識する親子は多い。小学生もタブレットを持つ時代、デジタル化は見切り発車で進んでいる。デジタル力を育てることにかまけていると、子どもたちの読み書き力はますます低下して、深く読む喜びが失われ生きる力にも影響してくると危惧される。感染状況をにらみつつ対策や工夫をしての実施を期待している。 ・本館、分館共に様々なイベントを企画してあるのでA評価。 ・コロナ禍にあっても柔軟に対応されており良いと思う。今後も様々な対応を迫られると思うがより一層の工夫をお願いする。 ・オンラインなども活用しながら、情報発信したり展示も工夫するなどイベントも充実したようで評価する。ヤングアダルトについても、情報発信方法なども幅広く検討しながら、さらなる充実したイベントを期待する。					A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

## 令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	快適な空間づくり		
内容	快適な空間づくり				
事業計画	やすらぎや交流の場といった、初めての来館者も過ごしやすい環境の創出など、大幅な館内レイアウトの変更について、施設設備の大規模更新による休館(6カ月程度)にあわせて行うこととし、長期保全計画に基づく設備更新を計画的に推進します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	長期保全計画に基づく設備更新 				
	レイアウト等の検討 		休館を伴う施設補修・設備更新の時期検討・実施 		
令和2年度					
計画	引き続き、計画的に設備更新工事を実施する。また、新型コロナウイルス感染症対策による全市的な工事の時期等の見直しの指示等を踏まえながら、更新工事時期の検討を行う。				
取組状況	令和2年度は、外壁工事、屋上防水工事(工期:~R3年度)、文書資料収蔵庫のパッケージ(部分)エアコン設備更新工事等を行った。また、施設設備の大規模更新工事の間に可能な館内レイアウトの検討のための、調査委託の準備を行った。				
令和3年度					
計画	引き続き、計画的に設備更新工事を実施する。また、新型コロナウイルス感染症対策による全市的な工事の時期等の見直しの指示等を踏まえながら、館内レイアウトや更新工事時期の検討を行う。				
内部評価 (令和2年度)					
長期保全計画に基づき計画的に設備更新工事を実施したほか、休館を伴う施設補修等の時期検討に向け基本計画委託の準備を行ったが、2年度中にはレイアウトの検討にまでは到達しなかったため、B評価とする。					B
外部評価 (令和2年度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度中にレイアウトの検討が終了すべきであったので、B評価とする。</li> <li>・コロナ禍が終わりを迎えたとしても、新たなウイルスの台頭も考えられる。コロナ禍での感染防止対策などの経験を生かし、換気システムの更新やレイアウトの見直しなどを早急に行い、その具体的な計画を示して欲しい。</li> <li>・度重なる緊急事態宣言でなかなか工事が進んでいないこともあったかと思う。</li> <li>・日々変化するコロナ対応が大変と思うが、市民が安心安全に利用できるようお願いしたい。</li> <li>・予算あつての設備更新計画なので、計画変更などは容易ではないことは承知しているが、新型コロナウイルスなどの対応について迅速な対応が必要である(もちろん、感染状況が落ち着けば大規模な対応は不要かもしれないがコロナに限らず様々な状況に臨機応変に対応する体制づくりも必要である)。</li> </ul>					A : 0 B : 5 C : 0 D : 0

## 令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	資料収集の充実				
事業計画	公共図書館としての役割を発揮するため、前期で見直した図書資料の収集方針に沿って資料収集を行い、市民ニーズに応えるよう努めます。 また、電子書籍の取り扱いについて、業界や他都市の動向を踏まえて、検討を継続していきます。さらに、収集した資料を幅広く活用できる方策を検討していきます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	資料収集方針に沿った資料収集				
令和2年度					
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合図書館及び分館の収集方針に沿って資料収集を行っていくとともに、市民ニーズにも対応していく。</li> <li>電子書籍については、他都市の事例を調査するなど、導入について検討していく。</li> </ul>				
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共図書館としての役割を発揮するため、総合図書館及び分館の収集方針に沿って資料収集を行った。</li> <li>市民ニーズに応えるようリクエスト本、予約待ち人数の多い図書の複本購入等を実施。</li> <li>電子図書館を開館した。電子書籍の収集については、本館・分館読書相談員全員で選書し、利用者ニーズの高いコンテンツの収集に努めている。</li> </ul>				
令和3年度					
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合図書館及び分館の収集方針に沿って資料収集を行っていくとともに、市民ニーズにも対応していく。</li> </ul>				

## 内部評価 (令和2年度)

限られた予算の中で、総合図書館及び分館の資料収集に努め、市民ニーズのあるリクエスト本、予約待ち人数の多い図書の複本購入等を実施した。 また、電子書籍については、利用者ニーズの高いコンテンツを提供できたことからA評価とする。	A
--	---

## 外部評価 (令和2年度)

<ul style="list-style-type: none"> <li>新ビジョン初年度資料収集経費が170,743千円であった。平成から令和となり、経費が112,412千円と65%ほどに削減されている。このような状況で十分な資料収集ができない。収集冊数は5万冊弱から6万冊強と増えているが、専門書、統計書、年鑑書等の調査に欠かせない資料が減り、一般書が増えている事によるものと考えられる。</li> <li>予算の確保に努めて欲しい。市民のニーズに応じて購入していることは評価できる。本が古いと、手に取らなくなる。館ごとに調査し、資料をさらに充実して欲しい。</li> <li>電子書籍のニーズに応じているのでA評価。</li> <li>市民のニーズに対応した資料の提供、電子書籍の提供両者とも重要なので、今後も継続お願いしたい。</li> <li>リクエストへの対応は十分されているとのことでA評価とする。</li> </ul>	A : 3 B : 1 C : 1 D : 0
---	----------------------------------

## 令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	レファレンス(相談)サービスの充実				
事業計画	窓口、電話、文書、電子メールによるレファレンスを実施するとともに、レファレンス情報のホームページでの提供を進めます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	レファレンスサービスの実施				
	令和2年度				
計画	窓口、電話、文書、電子メール等によるレファレンスを実施するとともに、ホームページの活用を進める。				
取組状況	窓口、電話、文書、電子メールによるレファレンスを実施し、令和2年度の主題別部門のレファレンス件数は22,795件(令和元年度36,294件)、文書資料部門のレファレンス件数は2,345件数(令和元年度4,033件)となった。令和元年度は、国立国会図書館のレファレンス協同データベースを活用して、当館のHP上で、レファレンス事例を参照できるようにしたが、令和2年度は、HPの検索にある「テーマ資料」を活用して、調べもののためのパスファインダーとして活用できるように検討し、「SDGs」や「がん情報」など具体的なテーマを定めて、入力作業を開始した。				
令和3年度					
計画	レファレンスにおける電子メールの利用促進をより一層図るとともに、さらにHPの活用を進める。				

## 内部評価(令和2年度)

メールレファレンスの利用だけでなく、ホームページを活用した調べものについての機能の充実が進んでおり、A評価とする。	A
---	---

## 外部評価(令和2年度)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子メールによるレファレンスが全体の22,795件のうち71件、0.3%と1%にも満たない。これは広報活動に問題があるのか原因を調査する必要がある。SNSも多様になっており、それらを使う可能性も検討すべきと考える。</li> <li>・様々なレファレンスを実施し、機能の充実に取り組んでいることは評価できる。しかし、令和元年度はレファレンス件数は微減に留まっていたが、令和2年度は前年度より30%以上の減となっているためB評価とした。あらゆる機会を捉えてのPRや、さらに使いやすくする取り組みが必要と考える。</li> <li>・利用者の利便性が向上したと思われるのでA評価。</li> <li>・ホームページが充実して利便性が高まりよかったと思う。</li> <li>・機能充実に加えて、テーマを選定しての入力作業を開始するなど評価できる。</li> </ul>	A : 3 B : 1 C : 1 D : 0
--	----------------------------------

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	課題解決型支援の充実				
事業計画	ビジネスや医療、子育て支援などの課題解決に対して、関係部局及び国・県等と連携を図りながら、図書館資料を活用した展示や講演会、相談会等を行っていきます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	医療・ビジネス・子育て支援等の情報提供				
令和2年度					
計画	新型コロナウイルス感染症の状況や対策に配慮しながら、課題解決型の行事を実施する。				
取組状況	<p>○ビジネス支援として、中小企業診断士による起業・経営相談会を開催した。          年間開催数 総合図書館 18回 相談 11件 (毎月第2・第4日曜日)          東図書館 14回 相談 9件 (毎月第1・第3日曜日)</p> <p>○医療支援として、総合図書館、分館で九州がんセンター及び済生会福岡総合病院から医師等を講師として招き講演会を開催した。          ①総合図書館:R2 12.15(土):口腔ケアとがん治療 17人参加(九州がんセンター)          総合図書館2階にがん情報コーナーの設置しており、常時、情報提供。          ②東図書館:R2.9.16(水):「知ることからはじめよう乳がんのこと」27人参加(済生会病院)</p> <p>○行政支援として、「SDGs」や「選挙と政治」をテーマとして、関係部局と連携して展示を行い、関係の本の紹介やパンフレットの配布などにより、情報提供を行った。</p>				
	令和3年度				
計画	新型コロナウイルス感染症の状況や対策に配慮しながら、医療、ビジネス、行政などの課題解決支援として、関係部局や関係機関等と協力して、図書館資料を活用した情報提供や関連事業を実施する。				
内部評価 (令和2年度)					
新型コロナウイルス感染症の影響で一部を中止することとなり、起業・経営相談、がんの講演会、関係部局との連携展示など可能な範囲での実施となったため、B評価とする。					B
外部評価 (令和2年度)					
<p>・コロナウイルス感染症状況での開催としては、努力したと評価したい。          ・コロナ禍ではリアル開催ができないことが予想される。そのためあらゆる場面でのリモートの利用が促進されている。著作権の問題など難しい場合もあるが、リモートを併用するまたはリモートで開催することに切り替えられるよう、準備段階から考えておく必要があると考える。工夫しての取り組みを望む。          ・講演会、相談会に参加希望の方のために、Zoom等使いオンラインでの開催の検討はいかがか？          ・市民のための情報ターミナル的な役割はとても重要なので、今後も様々な形で広げていただきたい。          ・可能な範囲で実施したことについては、評価したい(外的要因により回数だけで評価したくないので)。</p>					<p>A : 3          B : 2          C : 0          D : 0</p>

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	地域読書活動への支援		
内容	団体貸出先の拡大				
事業計画	地域の読書活動の拠点である地域文庫や学校、高齢者福祉施設等への団体貸出を実施し、団体貸出サービスの充実を図ります。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
令和2年度					
計画	令和5年度目標登録団体数の420団体に向けて取り組みを進める。				
取組状況	読書活動ボランティア講座等の催事機会に団体貸出制度の案内を行うなどの取り組みを行い、団体貸出の登録団体は令和2年度末時点で419団体となり、令和元年度に比較して4団体増加した。				
令和3年度					
計画	令和5年度目標登録団体数の420団体に向けて取り組みを進める。				

内部評価 (令和2年度)	
令和5年度目標420団体の登録に向け、令和元年度に比較して4団体増加の419団体を登録することができたためA評価とする。	A

外部評価 (令和2年度)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動は評価できる。さらなる活動の進展を図るには、図書資料費の増額が欠かせない。内容「6」との関連でBとする。</li> <li>・登録団体は増加傾向にあり取り組みを評価できる。</li> <li>・緊急事態宣言が又今後発出され図書館が閉鎖中であっても、団体貸出先で本が借りれるとありがたい。</li> <li>・目標がほぼ達成に近づき、大変喜ばしいと思う。</li> <li>・団体貸出サービスの充実ということで、登録団体数だけでなく、貸出件数なども情報としていただければ、実態をより把握できる。</li> </ul>	A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	地域読書活動への支援		
内容	地域読書活動への支援				
事業計画	地域において読書活動を行っている団体の活動状況を調査してニーズを把握するとともに、公民館や留守家庭子ども会等を訪問して、活動や環境整備への助言や支援等を行います。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
令和2年度					
計画	地域における読書ボランティアの活動の支援及び公民館における子どもの読書活動の推進に重点的に取り組むため、関係各課と連携して文庫活動の活性化や文庫間の交流促進を図る事業等を行う。				
取組状況	公民館への読書活動支援について、生涯学習課と連携して地域文庫交流会を生涯学習課主催の「公民館文庫活動実践報告・交流会」と併せて共同開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症等の影響により開催することができなかった。団体貸出における公民館の登録数は62団体であり、令和元年度と比較し登録数に変更はなかった。公民館の管理運営を支援する部署が進めている公民館ミニ図書館事業について連携し充実を図るため、総合図書館の団体貸出用蔵書の活用検討及び令和3年度実施に向けた調整を行った。				
令和3年度					
計画	地域における読書ボランティアの活動の支援及び公民館における子どもの読書活動の推進に重点的に取り組むため、関係各課と連携して文庫活動の活性化や文庫間の交流促進を図る事業等を行う。				
内部評価 (令和2年度)					
団体貸出の選本来館及び配送時など地域団体との接触機会に得た要望や相談内容を図書購入や活動助言などの支援に生かしたが、地域文庫交流会を開催することができず成果が不十分な面もあるためB評価とする。					B
外部評価 (令和2年度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本来企画していた活動が充分に行えず残念である。</li> <li>・公民館ミニ図書館事業などの活動支援を行っていることは評価できる。中止された交流会・実践報告会はリモートでの開催が求められる。</li> <li>・コロナ禍で訪問等推進活動が難しかったのではないかとと思われるためB評価。</li> <li>・コロナの影響を受けとても残念だが、今後の事業の推進を望む。</li> <li>・支援はできる限りのことを行われていると評価する。地域文庫交流会はリアル前提での開催かもしれないが、様々な形で(もちろん予算や人員の対応しうる範囲内で)方法を検討して頂きたい。</li> </ul>					A : 0 B : 5 C : 0 D : 0

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	市関連施設の図書室の相互協力		
内容	市関連施設の図書室の相互協力				
事業計画	引き続き、議会図書室、科学館及びふくふくプラザとの相互協力を実施するとともに、今後とも市関連施設との連携について検討していきます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	相互協力の実施				
令和2年度					
計画	引き続き、議会図書室、科学館及びふくふくプラザとの相互協力を継続していく。				
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会図書室を通じて、市議会議員及び行政職員への図書資料の貸出による支援を実施。</li> <li>・ふくふくプラザで図書資料の返却実施(福祉図書・情報室窓口での返却受付、施設入口に返却ポスト設置)。</li> <li>・福岡市科学館のサイエンスナビにおいて、図書資料の貸出・返却を実施。</li> </ul>				
令和3年度					
計画	引き続き、議会図書室、科学館及びふくふくプラザとの相互協力を継続していく。				

内部評価 (令和2年度)	
引き続き、議会図書室、科学館、ふくふくプラザとの相互協力をを行い、市関連施設との連携は継続できたためB評価とする。	B

外部評価 (令和2年度)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会図書室との連携をうたっているが、「図書館要覧」の23頁にある「他施設図書室とのネットワーク」に数値データも含めて盛り込まれていない。</li> <li>・進展が見られない。特に議会図書館との相互協力の様子がわかるデータがなく判断しづらいと思う。</li> <li>・十分取り組まれていると感じた。</li> <li>・今後も市関連施設との相互協力連携を充実させて市民の利便性に対応して欲しい。</li> <li>・相互協力について、何でも実施すればいいものでもないもので、相互にとって効果的な内容、方法について引き続き協議してもらいたい。</li> </ul>	<p>A : 2</p> <p>B : 2</p> <p>C : 1</p> <p>D : 0</p>



## 令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及		
内容	モデル児童図書リストの配布				
事業計画	子どもたちやその保護者等が子どもの本を選ぶ目安として、各年齢層に応じた本を紹介したリストを配布し、子どもの読書推進に寄与します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	作成・配布				
令和2年度					
計画	モデル児童図書リストを作成し、関係機関(保育園、小学校、公民館等)へ配付するとともに、掲載図書を展示し貸出を促進する。				
取組状況	モデル児童図書リストの配付(約3,900部)し、カウンターでのレファレンスのツールとしても有効に活用した。また、従来のモデル児童図書目録掲載図書及びリスト掲載図書の展示、貸出を行った。				
令和3年度					
計画	モデル児童図書リストを作成し、関係機関(保育園、小学校、公民館等)へ配付するとともに、掲載図書を展示し貸出を促進する。				

内部評価 (令和2年度)	
モデル児童図書リストの配付、モデル児童図書の展示、紹介等を計画通り行い、掲載図書の貸出を促進することができたためA評価とする。なお、令和2年度掲載図書の調査では、年間1冊当たりの貸出回数平均は、幼児用91回、小学1・2年生用90回、小学3・4年生用38回、小学5・6年生用41回であった。	A

外部評価 (令和2年度)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページからも参照できるので良いと思う。</li> <li>・総合図書館HP、こども図書館でモデル児童図書リストを見たりダウンロードでき、利用しやすくなっている。モデル児童図書リストの作成・配布は評価できる。引き続き取り組んで欲しい。</li> <li>・実際に子どもが本を選ぶときに参考にさせていただいている。</li> <li>・子ども達の図書教育にとって、とても良い事業と思う。今後とも充実を図っていただきたい。</li> <li>・リストの作成、配布、図書の展示等について、計画通り実施されたことについて評価する。ただ、リスト(特に学童が自分で読めるようになる3、4年生より上の学年)は、タイトルは並んでいるが、内容が目に飛び込んでこないのが、フォントの大きさや強弱など、工夫いただけると学童へのアピール度も増すのではないかと。</li> </ul>	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及	
内容	子どもの貸出カード作成推進			
事業計画	図書館の貸出カードを所有していない児童を対象として、貸出カードの作成を推進することにより、読書の普及等を図ります。			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	検討, 協議	実施		
令和2年度				
計画	開催可能な図書館催事や講座、団体貸出し等の機会を捉え、図書館の貸出しカードの作成を促す声かけに努める。			
取組状況	新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により小学生の図書館見学や小学生読書リーダー養成講座など図書館を会場とした催事が中止となり、貸出カード作成の案内機会を確保できなかったが、新たな取組みとして、各小学校へ配信される「福岡TSUNAGARU Cloud」を活用した小学生読書リーダー養成講座の代替実施を進め、講座参加者(37校427名)へ貸出カードの作成案内を行った。また、学校図書館支援センターによる学校図書館訪問時に、図書館の利用案内とともに貸出カードの作成案内を行った。			
令和3年度				
計画	開催可能な図書館催事や講座、団体貸出し、学校訪問等の機会を捉え、図書館の貸出しカードの作成を促す声かけに努める。小学生読書リーダー養成講座は、令和3年度においても「福岡TSUNAGARU Cloud」を活用した実施を各小学校に依頼し、貸出カードの作成案内も行う。			
内部評価 (令和2年度)				
小学生読書リーダー養成講座の小学校での代替実施などの機会を捉えて、貸出カードの作成案内に努めたため、B評価とする。				B
外部評価 (令和2年度)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合図書館ではなく、分館に小学一年生を案内するプログラムを小学校と協力して行い、その場で貸出カードの作成を行うことが考えられていない。</li> <li>・小学生読書リーダー養成講座参加者への貸出カード作成案内はある程度評価できるが、それが各小学校でひろがっているのだろうか？やはり少しでも行きやすい近くの分館と協力しての取り組みが必要ではないかと考える。</li> <li>・今後も貸出カードの作成を推進していただければと思う。具体的に1年で何枚位のカード作成を目標とされているのだろうか。</li> <li>・様々なイベントを中止することとなったので、コロナ禍のあおりを受けた事業の一つと思う。今後に期待したいと思う。</li> <li>・配信プログラムでの作成案内実施など評価されるが、読書の普及促進に向けて、様々なツールを活用してもらいたい。</li> </ul>				A : 0 B : 4 C : 1 D : 0

## 令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及	
内容	ヤングアダルト層(12歳～18歳)への働きかけの強化			
事業計画	広報やイベントを充実させるとともに、中高生に訴求する資料収集を進めます。			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
令和2年度				
計画	引き続きヤングアダルト向けに図書の紹介を行うことに加え、ヤングアダルト層を対象とするイベントを実施する。 また、市立高等学校を対象に、総合図書館の一般書架の図書資料を調べ学習用に貸出する制度を継続する。			
取組状況	新型コロナウイルス感染症拡大のため、集まつのイベントは実施できなかったが、電子図書館を開館して、ヤングアダルト向けの特集を設け、電子書籍を提供した。また、「International Games Week2020」に参加して、各部門が連携して、ゲームに関する展示を行い、関係する様々な本を紹介した。さらに、高校生向けの国連講演会をオンラインで実施した。 市立高等学校を対象にした総合図書館の一般書架図書資料の調べ学習用貸出については、特にリクエストはなく、実績がなかった。			
令和3年度				
計画	新型コロナウイルス感染症の状況を確認しながら、電子図書館も活用してヤングアダルト向けに図書の紹介を行うことに加え、ヤングアダルト層を対象とするイベントを実施する。			

## 内部評価 (令和2年度)

<p>新型コロナウイルス感染症拡大の厳しい状況の中で、電子図書館開館によるヤングアダルト向けのコンテンツの提供や国連に関連するオンライン講演会やワークショップなど、新しい方法で読書活動の促進や情報提供を開始し、今後の拡大が期待できるものとなった。しかし、高等学校への貸出については、実績がなかったことからB評価とする。</p>	B
---	---

## 外部評価 (令和2年度)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生、高校生の各学校での図書委員に協力を依頼し彼等自身の企画・立案のプログラムを彼等自身に運営してもらおうことを考えるべきではないか。</li> <li>・16歳以上の子どもたちへの取り組みはある程度評価できるが、12～15歳、中学生への取り組みがほとんどなされていない。中学生が手に取りやすい本、逆に読みごたえのある本の紹介が直接子どもたちに届くような取り組みが求められる。</li> <li>・中高生のニーズを把握し、興味のあるジャンルの電子書籍を増やしてみてもどうだろうか。</li> <li>・オンラインコンテンツを使用した活動はとても良いと思う。特に若い世代にはなじみやすいと思うので、様々なケースで取り入れてもらえればと思う。</li> <li>・高校を対象とした貸出についての実績がなかったことについて、先方の事情も把握した上で、現状の貸出事業のやり方を変更するなどの対応も検討頂きたい。</li> </ul>	A : 1 B : 4 C : 0 D : 0
---	----------------------------------

## 令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及		
内容	読書活動ボランティア講座の強化				
事業計画	読書活動ボランティア講座を開催し、学校や地域等幅広いボランティアを養成して、地域の読書活動の推進に寄与します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	読み聞かせ講座の実施				
	ストーリーテリング講座・おさらい会の実施				
令和2年度					
計画	令和2年5月～6月に絵本の読み聞かせコース、9月～11月にストーリーテリングコースを実施することとしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため計画を変更し、9月～10月に絵本の読み聞かせコースのみを実施する。 講座受講者には、受講後に地域文庫MAPを配布し、地域での活動参加につなげる。				
取組状況	令和2年9月～10月に絵本の読み聞かせコース(4日間、定員100名)を実施し、併せて延べ116名の参加があった。講座受講者には、福岡市内で活動している文庫団体の活動拠点を掲載した地域文庫MAPを配布し情報提供を行った。				
令和3年度					
計画	令和3年5月～6月に絵本の読み聞かせコース、9月～11月にストーリーテリングコースを実施することとしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により計画を変更し、9月～10月に絵本の読み聞かせコースのみを実施する。 講座受講者には、受講後に地域文庫MAPを配布し、地域での活動参加につなげる。				

## 内部評価 (令和2年度)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により計画を変更し実施したが、講座本来の半分程度であり不十分となったためB評価とする。	B
--	---

## 外部評価 (令和2年度)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス感染症が終息してから活動を再開してもらいたい。絵本だけではなく、高齢者施設での読み聞かせボランティアの養成も求められる。</li> <li>・計画どおりの実施ができなかったことは残念だが、読書活動ボランティア講座は内容も充実しており高評価である。引き続き取り組んで欲しい。版權の問題があり絵本の読み聞かせ講座のリモート開催は難しいため、リアル開催が実現できる取り組みを望む。</li> <li>・緊急事態宣言発出もあり、予定どおり実施できないこともあったと思うが、状況を見ながら活動されていたと思われる。</li> <li>・この事業もコロナの影響を受け大変だったと思う。3年度に期待したい。</li> <li>・コロナのために計画変更しての実施について評価する。</li> </ul>	A : 1 B : 4 C : 0 D : 0
--	----------------------------------

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	学校図書館への支援		
内容	学校図書館支援センターの充実				
事業計画	<p>前期での成果を踏まえ、総合図書館内に設置した学校図書館支援センターにおいて、市立小・中・特別支援学校の学校図書館への人的・物的支援を行い、学校司書の活動をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館への運営等に関する指導、助言</li> <li>・学校図書館の図書への選書や助言</li> <li>・学習支援用図書の貸出、学校司書への支援</li> </ul>				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	公共図書館司書の専門性を生かした学校図書館への支援				
	学習支援図書の貸出				
	学校図書館の活用・運営に係る情報収集と提供				
令和2年度					
計画	<p>学校の新型コロナウイルス感染症の感染防止策の状況も踏まえ、より学校現場の意向、要望に沿った支援に努める。また「小学生読書リーダー養成講座」については、図書館での実施は困難であるが、講座の目的を損なわない範囲での実施を検討する。中学校用の学習支援用図書について学習指導要領の改定に沿った蔵書整備を進める。</p> <p>読書に困難がある児童・生徒のため、マルチメディアDAISY等の貸出資料を整備し、貸出を行う。</p>				
取組状況	<p>令和2年度は84回の訪問を実施した。小学生用の学習支援用図書貸出については、62校から141回の利用があり、5,793冊の貸出を行った。中学生用の学習支援用図書貸出については、7校から12回の利用があり、542冊の貸出を行った。</p> <p>また、市内小学校5・6年生を対象に、受講した児童を「小学生読書リーダー」に認定する「小学生読書リーダー養成講座」については、各小学校へ配信される「福岡TSUNAGARU Cloud」を活用した代替実施を進め、9月から12月の期間に37校で実施があり、受講者427名全員を認定した。</p> <p>特別支援学校高等部の卒業生を対象に図書館利用案内を作成し、配付した。</p> <p>マルチメディアDAISYは点字絵本やLLブック等も含めタッチルックセットとして整備し、小学校2校に貸出を行った。</p>				
令和3年度					
計画	<p>学校の新型コロナウイルス感染防止策の状況も踏まえ、より学校現場の意向、要望に沿った支援に努める。また「小学生読書リーダー養成講座」については、図書館での実施は困難であるため、昨年度と同様に「福岡TSUNAGARU Cloud」を活用した講座を各小学校で実施する。</p> <p>読書に困難がある児童・生徒のため、マルチメディアDAISY等の貸出資料の貸出を行う。</p>				
内部評価 (令和2年度)					
<p>中学校向けの支援については、更なる周知が必要であるが、貸出が僅に伸びるなど、概ね計画通りに進捗した。小学校向け支援については、貸出登録校数が増加するなど安定的に貸出を行っており、相談対応や訪問など年度を通して実施した。全般的に事業の認知と活用が進んでいるためA評価とする。</p>					A
外部評価 (令和2年度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館への貸出の伸びを支える為にも、内容「6」図書購入費の増額が必要である。</li> <li>・A評価としたが、中学校向けの支援の取り組みの強化を望む。</li> <li>・引き続き学校図書館への支援をお願いしたい。</li> <li>・計画された内容がしっかり進んでいると思う。</li> <li>・取り組みについては、コロナ禍においても訪問を実施するなど評価する。計画の目標設定にもよるが、実績をどのように評価すればいいのかわからない点もある(予算設定に対して対応可能な訪問、貸出件数なのか、1校あたり〇冊や学童1人あたり〇冊といったものなのか)。</li> </ul>					A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	映像資料部門の充実		
内容	図書館外施設での映像資料上映事業				
事業計画	収集した映像資料についてさまざまな手法を用いて市民等に提供することで、効果的な図書館の映画保存事業のアピールを行います。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	手法検討	上映事業の実施			
令和2年度					
計画	市民局公民館支援課とも協議の上、効果的な公民館への告知方法等を検討。同時に新型コロナウイルス感染症対策を検討しながら、昨年度延期となった高取公民館での開催を含めて2か所の公民館上映を予定する。				
取組状況	1月30日(土)高取公民館でインドネシア映画「ジャングル・スクール」を上映。感染対策のため観客を30人限定とする。実際の観客は25人。その後公民館支援課と協議によるアドバイスに従い、市内全部の公民館に上映の希望調査を行う。年度末までに11館の上映申し込みがある。				
令和3年度					
計画	希望申し込みがあった11館の公民館と具体的な日時や上映作品等の協議を行い、新型コロナウイルス感染症対策を検討しながら、順次上映会を実施していく。				
内部評価 (令和2年度)					
<p>予定では2か所開催を考えていたが、公民館支援課との協議の中で、実際上映会を開催し、その実績を各公民館に紹介する手法が良いとのアドバイスがある。3月上旬全部の公民館に文書を配布。予想以上の反応があり、令和3年度の予約で11館を受け付ける。予想以上の反応で、事業としては成功と評価して良いことからA評価とする。</p>					A
外部評価 (令和2年度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の継続に努めてもらいたい。</li> <li>・公民館での上映は、少人数で集まって地域で映画を楽しめるイベントであり、コロナ禍でのイベントとして有効と考える。引き続き取り組んで欲しい。</li> <li>・上映事業が好評であるため。</li> <li>・素晴らしい取り組みと思う。このような機会が益々増えると良いと思う。</li> <li>・予想以上の反応について、それをどう事業として充実したものにするか、今後も期待する。</li> </ul>					A : 5 B : 0 C : 0 D : 0

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	映像資料部門の充実		
内容	資料展示事業				
事業計画	展示事業をシネラの広報に限定せず、アジア映画のポスター展を中心に多様な展示を計画し、映像文化の普及・振興、市民サービスの促進を行います。場所はビデオライブラリーを使った展示空間の新設を検討します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	令和2年度				
計画	新型コロナウイルス感染症のため、映像ホールでの映画上映が6月17日から開催となった。年間の上映企画の再検討が必要であるため、映像ホール前での上映企画にかかわるポスター展示を継続しながら、新たに使用されるようになるショーケースの活用及び新たな展示エリアの検討を行う。				
取組状況	映像ホールでの観客数が6月17日で50席であることから、観客が沢山入る企画をしないように上映を開始する。それに併せて令和2年度は展示はホール前に1枚のポスターを展示するのみにとどめる。映像ホールの観客席は順次増やして、2月から120席となった。上映企画に連動する展示企画は次年度に計画する。新たな展示エリアの検討は着手、引き続き検討を行う。				
令和3年度					
計画	令和3年6月の「ベトナム映画の現在」合わせて大規模なポスター展示を行う計画。新型コロナウイルス感染症の感染状況を考えながら展示プランを検討していく。新しい展示エリアの検討については現在検討されている大規模改修に併せて行えるようにする。				
内部評価 (令和2年度)					
新型コロナウイルス感染症対策のため、観客を滞留させ、集客を上げることを目的とした展示は控えるようにした。映像ホールの毎月の上映の時に各1枚のポスター展示は行っており、現状としてはやむを得ないと考えており、可能な限りの対応は行ったが、当初計画どおりに実施できなかったことからB評価とする。					B
外部評価 (令和2年度)					
・ポスター展示の現在の方法では限界がある。著作権者と連絡をとり、図書館のホームページ上での公開を図るべきである。 ・観客が滞留しにくいような展示スペースのレイアウトを望む。 ・新型コロナウイルス感染症対策をしながらもポスターの展示を行って対応をしていたため。 ・こちらもコロナの影響を受けたので、計画実行は難しかったと思う。 ・計画どおりにやるのが全てではなく、いろいろ現場で工夫したということは理解できる。					A : 0 B : 5 C : 0 D : 0

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	文書資料部門の充実	
内容	文書資料のデジタルデータ化・情報提供の充実			
事業計画	文書資料(歴史的公文書・行政資料・古文書資料・郷土資料)のデジタルデータ化・活用を進めるとともに、文学情報提供システムを拡張することにより、文書資料の情報提供システムを構築し、文書資料への理解と利用の促進を図ります。			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	デジタルデータ化・活用の推進			
	デジタルデータの作成・蓄積, ホームページ掲載・展示・市民提供等			
	文書資料情報提供システムの構築(文学情報提供システムの拡張)			
	検討	システムの拡張・情報提供		
令和2年度				
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き、デジタルデータ掲載によるホームページのコンテンツ充実を図る。</li> <li>○歴史的公文書に係る展示をデジタルデータ化した資料を活用して定期的に行い、公文書館活動について普及啓発を図る。</li> </ul>			
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームページに総合図書館のコレクション紹介として、古文書資料1点を掲載した。</li> <li>○「生をまもる～感染症とのたたかい～」をテーマに歴史的公文書の展示を行い、展示概要のしおりをホームページで公開した。(入場者数計702人)</li> </ul>			
令和3年度				
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き、デジタルデータ掲載によるホームページのコンテンツ充実を図る。</li> <li>○歴史的公文書に係る展示をデジタルデータ化した資料を活用して定期的に行い、公文書館活動について普及啓発を図る。</li> <li>○引き続き歴史的公文書管理システム等について関係部局と協議検討を行う。</li> </ul>			
内部評価 (令和2年度)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタルデータ化及びその提供のあり方については、今後も調査・検討が必要。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症の影響下で感染症とのたたかいに関する歴史的公文書の展示により、当館の公文書機能についてアピールできた。</li> <li>○電子決裁文書の移管等については、関係部局との協議が進んでおらず、引き続き協議を行う必要がある。以上のことから、B評価とする。</li> </ul>				B
外部評価 (令和2年度)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子決裁文書の移管についての協議を進めてもらいたい。</li> <li>・予算の確保に努め、デジタルデータ化に取り組むことを望む。データ化した資料の展示は資料の活用となることは大きい。</li> <li>・ホームページに載せることにより、多くの方の目に留まり普及啓発につながっていると思われる。</li> <li>・デジタルデータの取り扱いや保存等、今後もしっかり協議をお願いしたい。</li> <li>・デジタルデータ化や提供については、その費用に対するの効果が見えにくく、調整にも時間がかかるので、ねばり強く活動頂きたい。</li> </ul>				A : 2 B : 3 C : 0 D : 0



## 令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	文書資料部門の充実	
内容	文学館の利用拡大			
事業計画	市民に認知され、利用しやすい文学館となるよう、事業の充実及び情報提供の強化による利用拡大を図ります。また、インターネットによる福岡ゆかりの文学情報提供システムを新たに構築します。			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	総合図書館HP等での情報提供の充実			
	企画展、常設展、文学講座等の情報提供の充実			
	企画展の開催、広報強化			
	企画展開催・報道機関等による広報強化			
福岡ゆかりの文学情報提供システムの構築				
構築				
情報提供				
令和2年度				
計画	<p>○文学館事業として以下の事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、企画展は令和2年度は開催せず、令和3年度に「夏樹静子の書齋」をテーマに開催する事とし、そのための図録作成等準備を実施。</li> <li>・また、常設展示は企画展を開催しない分、展示替えを実施して開設。</li> <li>・引き続き文学情報提供システムデータベースの拡充を図る。</li> <li>・「福岡ミュージアムウィーク」は令和2年度は中止だが、ももちはま草紙、読書講座等の文学講座など、新型コロナウイルス感染予防を徹底しながら文学館の認知度アップを図る。</li> </ul>			
取組状況	<p>○文学館事業として以下の事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展図録「ミステリー女王 夏樹静子と福岡」の制作</li> <li>・ギャラリー常設展「あなたの身近に文学がー福岡文学散歩」、展示開設リーフレットを新規に作成、配布</li> <li>・ももちはま草紙(定例文学講座) 2回、常設展示関連文学講座 3回 延べ参加者数199人</li> </ul>			
令和3年度				
計画	<p>○文学館事業として以下の事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図録刊行後に、そのコンテンツをもとに令和3年度中を目途に写真展・パネル展の実施を検討</li> <li>・常設展示「冴えの人ー歌人・長塚節(ながつか・たかし)」を会期中展示替えを実施して開設</li> <li>・ももちはま草紙、読書講座等の文学講座を感染予防を徹底して実施し、文学館の認知度アップを図る。</li> </ul>			
内部評価 (令和2年度)				
<p>○新型コロナウイルス感染防止対策のため、会場の定員を制限したため、文学講座等参加者は昨年度より減少したが、応募者数は新型コロナウイルス感染症影響下にも関わらず昨年度より増加した。図録等販売数は昨年度より減少した。</p> <p>(R元:企画展3,269人、文学講座等439人、図録等販売273冊→R2:未開催、199人(新型コロナウイルス感染症対応による人数制限:応募者546人)、87冊)</p> <p>○企画展については、新型コロナウイルスの感染拡大のため令和2年度の開催を見送り、図録「ミステリー女王 夏樹静子と福岡」の制作を先行して実施した。図録版下データの作成に想定外の時間を要し、印刷・校正作業については令和3年度とすることとした。</p> <p>以上のことからB評価とする。</p>			B	
外部評価 (令和2年度)				
<p>・努力されていることは理解できる。コロナウイルス感染症終息後を見据えて、広報の手段を考える必要がある。</p> <p>・文学講座、企画展図録の制作など魅力的な企画がなされ、文学館の認知度のアップにつながっていると評価できる。</p> <p>・文学館事業も新型コロナウイルス感染症対策しながらできる限りの取り組みをされていたため、こちらの事業も福岡の文学に寄与する内容なので、今後益々事業が進むことを期待する。</p> <p>・文学館事業もコロナの影響を大きく受けたが、その中で講座を開催したことを評価する。希望者も多いということで、プログラムの充実が期待される。</p>			A : 1 B : 4 C : 0 D : 0	

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	運営方法の検討				
事業計画	現在指定管理制度を導入している総合図書館および東図書館の成果を検証し、図書館の運営方法を検討します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	総合(建物管理のみ)、東(運営)				
	早良南(仮称)				
令和2年度					
計画	運営方法として決定した指定管理者による管理に向け、必要な手続きを進める。				
取組状況	総合図書館及び東図書館は選定・評価委員会を開催し、総合図書館(施設管理)及び東図書館の指定管理者による管理を継続することとしたほか、市の方針に基づき早良南図書館については指定管理者制度を導入することを決定した。				
令和3年度					
計画	指定管理者への定期的なモニタリングを実施し、適切な運営に反映するよう努める。				
内部評価(令和2年度)					
総合図書館と東図書館の指定管理期間(5年間)の最終年度であり、既存の指定管理の成果を検証したが、必要十分な運営であった。 令和3年度からの運営方法については、指定管理者制度を継続して行うこととし、新設される早良南図書館においても同様の効果が期待できることから、総合図書館、東図書館、早良南図書館の3館の運営のための指定管理者を公募し、それぞれ選考、決定したこと等、計画どおり進められたことからA評価とする。					A
外部評価(令和2年度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者の活動をチェックし、成果を上げるようにしてもらいたい。</li> <li>・指定管理者制度は導入した市町村により評価は大きく分かれていることから、今後も慎重に進め定期的な調査見直しなどを行うことを望む。</li> <li>・利用者のニーズをアンケートで集め、運営方法を検討し、図書館の新設や返却ポストの設置など利便性の向上に努めている。</li> <li>・事業計画に沿って安定して進んでいるので安心である。</li> <li>・指定管理者の公募、選定、決定について円滑に行われたことについて評価する。成果の検証過程での改善点などをこれから5年間に活かしてもらいたい。</li> </ul>					A : 5 B : 0 C : 0 D : 0

## 令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	図書館ボランティアとの共働の推進				
事業計画	図書館サービスの充実と市民活動の場の提供を図るため図書館ボランティアとの共働を推進します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	活動内容の追加・実施				
令和2年度					
計画	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新規ボランティアの受け入れは困難であり、現在登録しているボランティアを継続して受入れ、図書館ボランティアとの共働を図る。				
取組状況	新型コロナウイルス感染症の影響で十分な活動時間がとられなかった中、ボランティアとして名簿登録者数46名、活動実績としては、時間ベースで総計1,678時間取り組んでいただいた。活動の中では本の修理が一番多く1,460時間(87%)を占める。				
令和3年度					
計画	継続の意思のあるボランティアを確認後、不足数を新規に公募する。令和3年4月1日作成名簿登録者数118名				
内部評価 (令和2年度)					
開館日数の減や三密を避けるという新型コロナウイルス感染症の影響の中、1,600時間以上という長時間にわたり取り組んでいただいております。図書館との共働が認められることからA評価とする。					A
外部評価 (令和2年度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本の修理が大半を占めている業務内容であるが、図書館との共働の領域を拡げる柔軟な発想が欲しい。他館の実践例を取り入れて欲しい。</li> <li>・業務を選べるボランティア募集は応募しやすく評価できる。</li> <li>・長時間ボランティアをして下さっている。</li> <li>・今後もボランティアさんたちが共働できる環境を整備していただければ、市民の自己実現に寄与できると思う。</li> <li>・ボランティアの皆さんとの連携が非常に重要であり、令和2年度も活動できたことを評価する。</li> </ul>					A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	職員の育成及び技術向上				
事業計画	利用者が心地よいと感じる図書館となるよう、図書館職員の接遇研修等を強化します。また、図書館職員として専門知識や技術の向上を目指し、各種研修を実施し、研修成果の情報共有を図ることで、図書館サービスの向上と充実を図ります。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
令和2年度					
計画	<p>今年度は職員が一同に集まったの全体研修を制限し、必要最小人数での福岡市職員、図書館職員としての資質を高める研修を、年間を通して計画的に実施していく。</p> <p>専門研修については、外部研修の実施は可能性が低く、派遣も見合わせる必要があるため、レファレンスや資料保存、著作権等に関する国立国会図書館のインターネットによる遠隔研修の受講を主に奨励し、各分館を含めた職員の専門知識習得に努める。</p>				
取組状況	<p>全体研修については、職員の基本となる接遇・公務員倫理研修等の実施や、避難訓練等の防災研修など4回実施した。</p> <p>専門研修については、県立図書館の研修等へ職員を派遣(延23人)した。</p> <p>また、著作権や資料保存等に関する国立国会図書館のインターネットによる遠隔研修等を取り入れ、各分館を含めた職員の専門知識習得を奨励した。</p>				
令和3年度					
計画	<p>今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が拭えない現況であるため、職員が一同に集まったの全体研修はできるだけ制限し、必要最小人数での福岡市職員、図書館職員としての資質を高める研修を、年間を通して計画的に実施していく。</p> <p>専門研修については、会場集合形式のものは3年度も縮減され、インターネットを介してのオンラインによるものが主体になると考えられる。派遣研修及びインターネット接続が可能な範囲でオンライン研修の受講を奨励し、各分館を含めた職員の専門知識習得に努める。</p>				
内部評価 (令和2年度)					
<p>参加可能な範囲での専門研修への派遣は行ったが、予定していた全体研修が十分にできていないためB評価とする。</p>					B
外部評価 (令和2年度)					
<p>・公立図書館でも専門主題領域の知識は必要なので、それを司書で分担してNDC1～9をもれなく習熟すべきである。このことに対する認識が欠けている。</p> <p>・図書館員としての高い専門性を持つための研修は不可欠だが、それと共にリモートで発信するための基本的な技術習得の研修も必要と考える。イベントや会議の企画時から感染拡大したときの対策がとれるよう体制を整えて欲しい。</p> <p>・できうる限りでの研修は行っていったようなのでB評価。</p> <p>・研修等コロナ禍の状況下でよくやられていると思う。今後も職員、関係者の方々の知識向上に努めていただけると嬉しい。</p> <p>・研修が十分にできなかったというものの、インターネットによる遠隔研修を取り入れるなど、状況変化への対応もなされており評価する。令和3年度以降も、オンラインなどをうまく活用して、職員の育成、技術向上を図っていただきたい。</p>					<p>A : 1</p> <p>B : 4</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	施設の有効活用などによる財源確保				
事業計画	駐車場収入による財源確保に努めるとともに、寄付金収入等の増額方法について検討します。 また、デジタルサイネージや施設広告、施設の目的外利用等について、新たな収入確保を検討します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	駐車場収入による財源確保				
	新たな他財源	その他財源の確保			
令和2年度					
計画	駐車場の適切な運営や寄付金制度のPRに努めていくとともに、その他財源確保における手法等について、検討を行う。				
取組状況	駐車場の運営については、外壁工事に伴う駐車台数減の影響もあり、当初予定より減額したが、目的外使用料の基本使用料として約295万円の歳入があった。また、喫茶厨房室や自販機等に係る目的外使用料についても、新型コロナウイルス感染症による休館の分を減額したが、約80万円の歳入があった。				
令和3年度					
計画	駐車場の適切な運営や寄付金制度のPRに努めていくとともに、その他財源確保における手法等について、検討を行う。				
内部評価 (令和2年度)					
減額は不可抗力の面が否めないが、その他の財源確保が図られているとは言い難いため、B評価とする。					B
外部評価 (令和2年度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も多方面からの寄付の募集に期待している。</li> <li>・財源確保はコロナ禍においてさらに難しい課題となっているが、昨年度からの進展が見られない。</li> <li>・財源確保については要検討だが歳入があったため。</li> <li>・様々な不利な状況が重なるなか健闘されていると思う。</li> <li>・財源確保については、様々な方策があるので、検討を続けてもらいたい。</li> </ul>					A : 1 B : 4 C : 0 D : 0

令和2年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	情報発信の推進		
内容	情報発信の推進				
事業計画	引き続き、インターネット等を活用した情報発信に努めるとともに、新聞やミニコミ誌などのメディアへの働きかけを進めます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討	実施			
	令和2年度				
計画	引き続き、ホームページやSNS、新聞等の媒体を通して、効率的で効果的な情報発信を行う。				
取組状況	<p>図書館の開館情報やイベント情報等をホームページやSNSを通して発信した。また、市報道部門を通し、又は直接資料提供等を行い、情報発信に努めた(市報道部門を通した新聞・報道機関への資料提供数10件(これに対し報道又は掲載件数70件))。このほか、図書にちなんだお菓子作りの動画を製作・配信したほか、新規事業である電子図書館の広報に努めた。また、施設の魅力ある箇所のツイッター発信など新たな取り組みも行った。</p> <p>媒体ごとの登録者増加率(前年度比)は、フェイスブック約16%増(258件→298件)、ツイッター約57%増(828件→1,298件)、メルマガ約8%増(476件→512件)、LINE約9%増(3,263件→3,563件)となっている。</p> <p>また、TVCMや地元ファッション広報誌等への撮影場所提供の機会を得て、施設名周知にも取り組んだ。</p>				
令和3年度					
計画	引き続き、ホームページやSNS、新聞等の媒体を通して、効率的で効果的な情報発信を行う。				
内部評価(令和2年度)					
緊急事態宣言を受けイベント等が実施できなかったことから、報道機関等への資料提供の機会は減少したが、新たな形での情報発信を行い、少しずつSNSでの登録者も増えてきていることから、A評価とする。					A
外部評価(令和2年度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前とは見違えるほどの情報発信力である。これをプレスリリースからSNSへ拡大してもらいたい。</li> <li>・様々な取り組みにチャレンジしていることを評価するが、利用者減の傾向は昨年同様変化が見られない。</li> <li>・色々な媒体で情報発信しているため。</li> <li>・FB、ツイッター等、とても良い取り扱いと思う。この調子で情報発信を続けていけば、市民の図書に対する意識も高まると思う。</li> <li>・媒体ごとの登録増加数の伸びが異なり、用途が異なる可能性もあるので分析が必要と思われる。情報発信そのものについては、評価される。</li> </ul>					A : 3 B : 2 C : 0 D : 0